

## 新宿区民会議第五分科会

- 中間発表会に向けて -

立教大学ビジネスデザイン研究科  
廣江 彰

05.12.2005 1

## 11月7日の復習から

05.12.2005 2

### 区民会議の役割

(仮称)新宿区民会議の役割(仕事)は次のように考えています。

- 1 新基本構想、新基本計画、新都市マスタープランについて、**区長へ提言**する。

構想や計画に盛り込むべき内容について約1年間検討を行い、その結果を**提言書として平成18年6月までに区長へ提出**いただきます。

なお、提言をまとめる前に、**中間段階の発表会**を行っていただきます。

- 2 **基本構想審議会及び都市計画審議会へ意見提出**する。

区長は、提言書の受理後、同提言を最大限尊重するものとして、基本構想・基本計画については条例に基づく附属機関である「新宿区基本構想審議会」へ、また都市マスタープランは「新宿区都市計画審議会」に諮問します。

区民会議の方には、**上記審議会が区民会議の提言について一定の考え方をまとめた段階で、それに対する意見を平成18年11月頃提出**していただきます。

この2つの役割を終えた時点で、区民会議は解散する予定です。

### 2 見直し・策定の方向

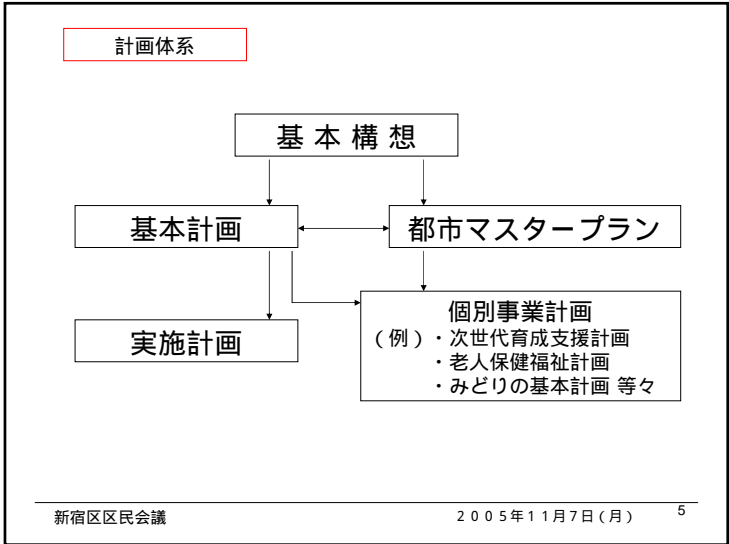
「協働と参画」、「地方分権・住民自治」の一層の発展と拡充をめざします。本格的な少子高齢社会の到来や安全・安心に対する関心の高まりに的確に応えるとともに、文化の薫るまちづくり、外国人との共生等の推進を図ります。それらを総合的に推進していくための、**区民等の参画システムの構築**をめざします。

### 3 見直し・策定の視点

**区民等との《協働と参画》による、策定プロセスを重視**した計画づくりを行います。まちづくりは行政だけで行うものではありません。これからのまちづくりは、区民や地域団体、NPO、企業などと行政との「協働と参画」により進めていく必要があります。このため、今回の計画の見直し、策定にあたっては、**区民との協働と参画を一層推進していくため、区が計画の素案を作成する前の段階から、区民の目線から検討**いただくこととしました。こうした策定プロセスを重視する計画づくりを進めることにより、区民の皆さんと行政が将来のまちづくりの方向性を共有できるようにします。

区民にとって分かりやすくまた区民と行政、それぞれが果たすべき役割がみえる計画とします。今までの計画は、一定の区民参加を経て策定されてはいますが、区民にとって必ずしも身近で分かりやすい計画となっていない面もあります。

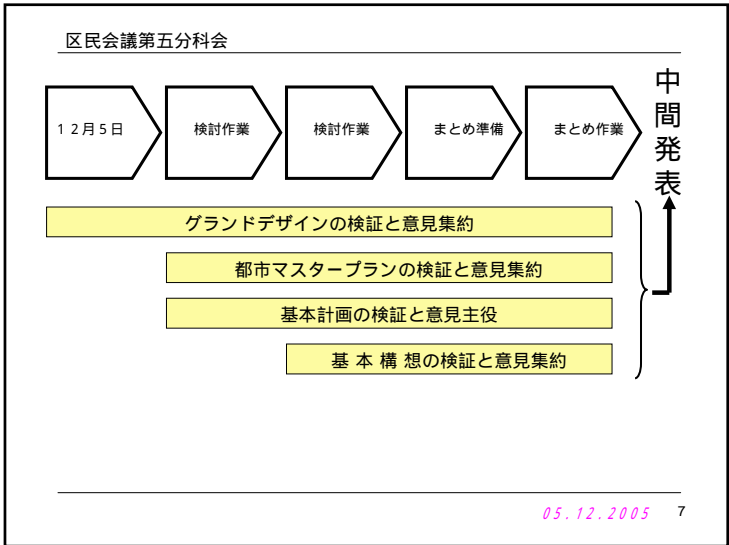
しかし、近年「新しい公共」という考え方が提起されています。「公共」は、行政によってのみ担われるものではなく、民間によっても担われるものです。特に、地域に根ざした身近な課題に柔軟に対応する点で、「**民の担う公共は重要な意味**を持っています。これからの計画は、区民にとって分かりやすいものであると同時に、**区民、企業、NPO、行政など関係する主体の果たすべき役割が見え、各主体が計画を共有できるもの**でなければなりません。公共を担おうとする様々な関係者が、身近に思える計画をめざします。



区民会議第五分科会

おおまかなスケジュール  
- 詳細は本日お決め下さい

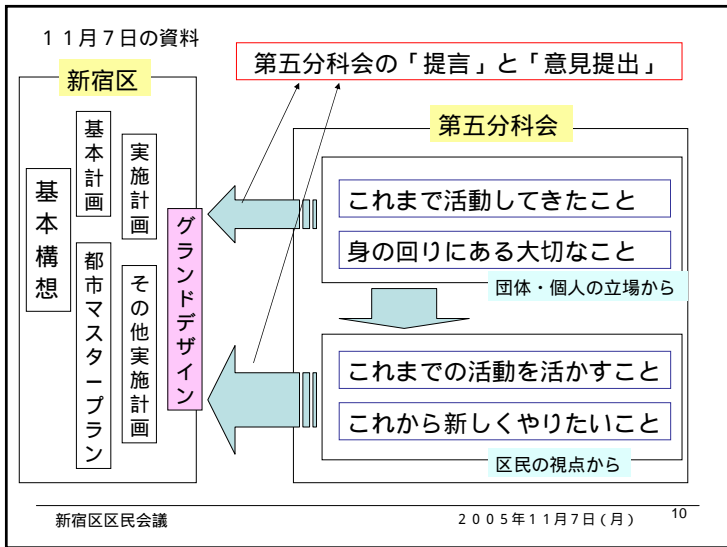
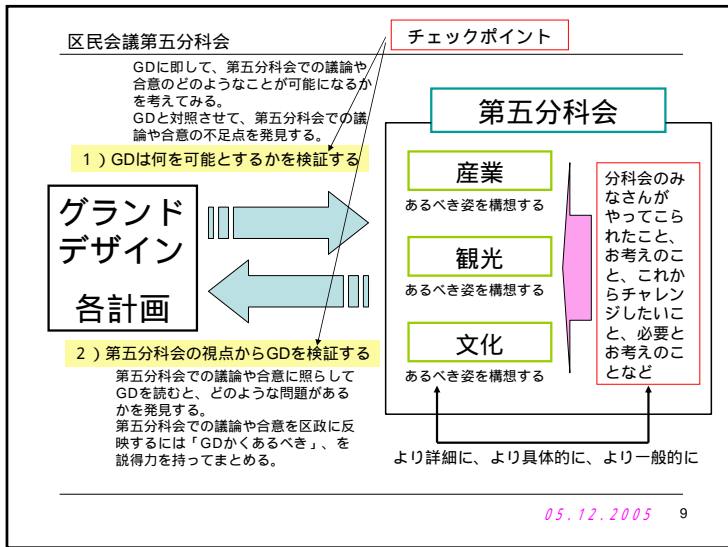
05.12.2005 6



区民会議第五分科会

ランドデザインに対する意見

05.12.2005 8



区会議第五分科会

ひとつの例、としての図書館の役割  
- その地で生きていくための知恵袋 -

05.12.2005 11

区会議第五分科会

図書館活動が産業、文化と結びつく例



「オケクラフトが誕生して21年・・・。木と語り合う心が技を生み、技から新たなデザインが創られています。暮らしに「和みの時空」を届けてくれるオケクラフト。オケクラフトから発信されるデザインをお楽しみください」紹介されている。

05.12.2005 12



置戸町は、北海道の東部、網走支庁管内の南西端に位置、総面積は527平方キロメートル、8割以上が森林で占められている。

町は、大雪山系の東端に接し、中心部をオホーツク海に注ぐ常呂川が流れており、川沿いに耕地や集落が点在。主な産業は、畑作や酪農を中心とする農業と豊富な森林資源を背景とした林業、木材産業。北見市までは列車・車とも40分、女満別空港までは車で80分の距離。

人口は、昭和35年の13,159人をピークに減少を続けており、現在は人口3,938人となっている

05.12.2005 13

### ひとづくり・ものづくり - 発端は図書館

「とにかく地域そのものを再生させていかなければならない。...今はどこをみても人が減って行く。そういう中で地域の最低限の機能が再生産されなくなる恐れがある。そうすると、どうしても何とかそこでしたたかに食って行く人をつくらなければならない。

公民館にしる、図書館にしるその課題から逃れることができないというか、経済的な面とかかかって地域を考えざるを得ない。

...  
根本的には地域を考え、そこで食って行けるようなひとを少しでも育てたいということなんですよ。

(澤田正春・置戸町立図書館館長インタビュー、1987年)

05.12.2005 14

### ひとづくり・ものづくり - 発端は図書館

図書館；1967年から8ミリで利用案内制作。その際に、本を読んでメロンを売らせた人の紹介などをしたが空回りに終わった。

豊富な図書量など、図書館の基本的な力をつけることへ方向転換。1975年に一人当たり貸出冊数で日本一に。

第三次社会教育5ヵ年計画（1980年～）から、基礎的な力をつけた図書館は、生活と生産の双方へ意図的なかかわりを持つ。

当たり前の図書館活動をしつつ、住民が豊かに生活するための情報に役立てるかをテーマのひとつとして図書館活動を行う。

図書館が生活と生産にかかわりを持つ中で、基幹産業の林業（えぞ松、とど松）にぶつかり、「木に親しむ日」を始める。

05.12.2005 15

### 過疎から逃げず、やれることに取り組む

過疎は経済問題。社会教育も図書館活動も、地域の生産活動に何らかのかたちでかわらざるを得ない。

生産技術そのものが、地域の中の生活文化のひとつの形態。生産は文化のひとつの表現。生活文化をトータルに考えていく。

生活文化＝暮らし自体をみつめ、地域の資源もその中であらためて見直していく。それがやがて暮らしにかかわり、生産に反映。

1981年から「木に親しむ日」を始める。地域に残る、あるいは廃れた技術を見直す。「ぶきっちょ」＝木工趣味の会を始めた。

しかし、指導者がいない。そこで、本や雑誌に頼った。そこから秋岡芳夫氏の「裏作芸」（冬の裏作、人生の裏作）に出会う。

05.12.2005 16



楽しい労働であること、「誂え」の利く工法をこれからも維持する。「誂え」に応ずることで生活者の生産参加に役立つ、コミュニティの生産力回復に役立つ。銘々の生活用具を供給することで個性的な生活環境を創るのに役立つ。工芸は省資源産業をめざす。

こうした考えを地域の中に取り込む。「地域産業開発センター」設置、そこからオケクラフトが誕生。オケクラフトには地域や生活を見直す心やチャレンジ精神、暮らしの提案等の発想が込められている。

05.12.2005 17

## オケクラフトの現在

1988年にクラフトの共通の売り場を兼ねた研修施設としてオケクラフトセンター森林工芸館、1993年には個人工房を開設するための生産施設としてオケクラフト共同工房を建設。

1984年には「オケクラフト研修生」、2000年度からは「オケクラフト時松塾」の研修制度を創設し、作り手の養成。

この事業は置戸町の将来へ向けた発展策の一つ。研修生には、5年以内に町内に工房を開設することが求められている。

機械設備の導入には町独自の融資制度「置戸町地場産業振興資金融資制度」を利用できる。すぐに工房を開設できない場合は、研修終了後3年間オケクラフト共同工房での生産が可能。

05.12.2005 18

## オケクラフトの成果と課題



単位：千円、人

| 年度  | 1996   | 1997   | 1998   | 1999   | 2000   | 2001   | 2002   | 2003   |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 販売額 | 53,285 | 49,420 | 41,469 | 44,016 | 40,805 | 37,943 | 35,484 | 37,561 |
| 入館者 | 16,428 | 16,730 | 17,202 | 19,026 | 17,492 | 13,973 | 13,285 | 12,295 |
| 工房数 | 12     | 11     | 12     | 15     | 15     | 21     | 21     | 23     |

05.12.2005 19

ご参考までに

05.12.2005 20